

第8回 安曇野総合技術新校（仮称）再編実施計画懇話会

日時：令和7年9月24日（水）

午後6時から午後7時30分

会場：安曇野市役所4階 大会議室

次 第

1 開 会

2 県教育委員会あいさつ

3 会議事項

（1） 第7回安曇野総合技術新校（仮称）再編実施計画懇話会まとめ

（2） 講演「地域連携で地元の人材を育成」

講師：山梨県立甲府工業高等学校 専攻科・創造工学科

総括主任 永田 典弘 先生

（3） 学びのイメージについて

（4） 質疑応答及び意見交換

4 その他

次回の予定

【日時】 令和7年11月頃（予定）

【場所】 （調整中）

【内容】 学びのイメージ策定に向けた意見交換

5 閉 会

新校再編実施計画懇話会開催要綱

（目的）

第1 県教育委員会が、統合新校ごとの再編実施計画を策定するにあたり、再編対象校に加えて、対象校が所在する地域の意見を聴くため、「新校再編実施計画懇話会」（以下、「懇話会」という。）を開催する。

なお、懇話会は、地方自治法第138条の4第3項の規定に基づき、法律又は条例により設置された附属機関ではないものとする。

（会議事項）

第2 懇話会は、次の事項について意見交換を行う。

- （1）学校像、教育方針等に関すること
- （2）校地・施設・設備等に関すること
- （3）管理運営等に関すること
- （4）教育内容等に関すること
- （5）その他、県教育委員会が必要と認める事項に関すること

（構成員）

第3 懇話会の構成員は、統合対象校の学校関係者（校長、教職員等）、地域の代表（自治体関係者、産業界の代表等）、同窓会、PTA、生徒の代表等とし、必要に応じ、県教育委員会が依頼する。

2 会議に座長を置く。

（開催期間）

第4 会議は統合新校が開校するまでの間、開催するものとする。

附 則

この要綱は、令和2年10月26日から施行する。

安曇野総合技術新校（仮称）再編実施計画懇話会構成員名簿

令和7年4月以降

（敬称略）

	区分	氏名（座長◎）	所属等	役職等
1	自治体	中山 栄樹	安曇野市	副市長
2		宮澤 達	池田町	副町長
3		橋渡 勝也	安曇野市教育委員会	教育長
4		山崎 晃	池田町教育委員会	教育長
5	産業界	高橋 秀生	安曇野市商工会	会長
6		栗原 裕	J A あづみ	総務開発事業部長
7		宮崎 鉄雄	池田町商工会	事務局長
8		傳刀 勇	J A 大北	総合企画管理課長
9	学識経験者	◎村松 浩幸	信州大学教育学部	教授
10	地域	斉藤 岳雄	有限会社 斉藤農園	専務取締役
11		石井 克則	黒田精工株式会社	専務取締役・工場長
12		深澤 大輔	株式会社 大王（大王わさび農場）	代表取締役
13		斎藤 政一郎	松本地域振興局	局長
14		柳原 健	北アルプス地域振興局	局長
15	同窓会	笠井 明	南安曇農業高等学校同窓会	同窓会長
16		山崎 完好	穂高商業高等学校同窓会	同窓会長
17		宮澤 敏文	池田工業高等学校同窓会	同窓会長
18	P T A	北川 昭一	南安曇農業高等学校 P T A	P T A 会長
19		鷲澤 恒夫	穂高商業高等学校 P T A	P T A 会長
20		小山 恵梨香	池田工業高等学校 P T A	P T A 会長
21		小松 公平	安曇野市 P T A 連合会	顧問
22		小澤 誠一	大北 P T A 連合会	会長
23	小中学校等関係者	臼井 慎詞	安曇野市校長会（豊科北小校長）	会長
24		工藤 美恵	北安曇校長会（池田小学校長）	会長
25		山岡 勝則	安曇養護学校	校長
26	再編対象校	蜜澤 健人	南安曇農業高等学校	生徒会長
27		大吉原 麗	南安曇農業高等学校	生徒会副会長
28		井出 敦	南安曇農業高等学校	校長
29		今溝 秀雄	南安曇農業高等学校	教職員
30		山口 日菜子	穂高商業高等学校	生徒会長
31		小林 優夏	穂高商業高等学校	生徒会副会長
32		三宅 浩一	穂高商業高等学校	校長
33		川上 忠志	穂高商業高等学校	教職員
34		深澤 穂積	池田工業高等学校	生徒会長
35		竹内 海翔	池田工業高等学校	生徒会副会長
36		藤田 洋子	池田工業高等学校	校長
37		西山 浩介	池田工業高等学校	教職員

【事務局】

学校名	氏 名（役職等）
南安曇農業高等学校	（教頭） 本山 義治
	（教職員） 今溝 秀雄、加藤 慎一郎、水谷 通章、矢野 良
穂高商業高等学校	（教頭） 橋本 徹
	（教職員） 浅見 大輔、有賀 詩織、川上 忠志、酒井 慎也
池田工業高等学校	（教頭） 山口 秀樹
	（教職員） 佐藤 仁、西山 浩介、松井 一陽、矢原 和義

	氏名	所属等	役職等
県教育委員会	柳沢 勝美	高校教育課 高校再編推進室	主幹指導主事
	高橋 正俊	高校教育課 高校再編推進室	主任指導主事
	原 周一郎	高校教育課 高校再編推進室	主任指導主事
	貝野 宗司	高校教育課 高校再編推進室	主事
	宮沢 悠太	学びの改革支援課 高校教育指導係	指導主事

第7回 安曇野総合技術新校(仮称)再編実施計画懇話会まとめ（案）

日 時	令和 7 年 7 月 23 日（水）午後 5 時 30 分から午後 7 時 10 分		
場 所	池田町交流センターかえで　ホール		
出 席 （敬称略）	中山 栄樹、宮澤　達、橋渡 勝也、山崎　晃、金森 俊文(代理)、栗原　裕、宮崎 鉄雄、 傳刀　勇、村松 浩幸、斉藤 岳雄、石井 克則、草間 英樹(代理)、柳原　健、笠井　明、 山崎 完好、宮澤 敏文、北川 昭一、鷺澤 恒夫、小山恵梨香、小松 公平、臼井 慎詞、 工藤 美恵、山岡 勝則、井出　敦、今溝 秀雄、山口日菜子、小林 優夏、三宅 浩一、 川上 忠志、深澤 穂積、竹内 海翔、藤田 洋子、西山 浩介　　（以上 33 名）		
欠 席 （敬称略）	高橋 秀生、深澤 大輔、斎藤政一郎、小澤 誠一、 蜜澤 建人、大吉原 麗（以上 6 名）	傍聴	会場 17 名、報道 3 社、 オンライン 6 名
事務局	南安曇農業高校	本山教頭、川上教諭、中田教諭、水谷教諭、矢野教諭	
	穂高商業高校	橋本教頭、浅見教諭、有賀教諭、川上教諭、酒井教諭	
	池田工業高校	山口教頭、佐藤教諭、西山教諭、松井教諭、矢原教諭	
	県教育委員会	百瀬参事、柳沢主幹指導主事、高橋主任指導主事、原（周）主任指導主事、 宮沢指導主事	
会議事項	（１）第 6 回安曇野総合技術新校（仮称）再編実施計画懇話会まとめ （２）講演「総合産業高校での学科連携をとおした職業人育成」 講師：福井県立坂井高等学校　校長　清水　一広　先生 （３）質疑応答及び意見交換		
当日資料	・ 次第、開催要綱、構成員名簿、第 6 回懇話会まとめ ・ 講演会資料 ・ 会場配席図		

主な内容（→ 講演者）

○会議事項

- (1) 第6回安曇野総合技術新校(仮称)再編実施計画懇話会まとめ
 - ・第6回懇話会まとめについて事務局から説明。【質問、意見なし】
- (2) 講演「総合産業高校での学科連携をとoshした職業人育成」

講師：福井県立坂井高等学校 校長 清水 一広 先生

 - ・福井県立坂井高等学校の概要 福井県最大級の総合産業高校（福井県における多学科を擁する専門高校の呼称）であり、4学科8コース（農業科2コース、工業科4コース、商業科1コース、家庭科1コース各コース1クラス 定員32～33名）が設置されている。
 - ・平成26年度(2014年度)開校。坂井農業高校、春江工業高校、金津高校経理科・情報処理科、三国高校家政科の4校を統合し、福井県北部の県立高校4校中唯一の職業系高校であり、令和3年度～令和5年度マイスター・ハイスクール事業指定、令和6年度～令和7年度マイスター・ハイスクール普及促進事業拠点校。
 - ・令和5年度に清水校長が着任したとき、職員間には4学科8コースが寄せ集められただけの学校という認識があり、坂井高校の大きな課題となっていた。
 - ・定員割れ、生徒の学力やモラルの低下、問題行動への対処、保護者対応の難しさ、新学習指導要領の3観点(※)評価、マイスター・ハイスクールや地元開催全国産業教育フェアへの参加など、教員に徒労感や疲弊感が蔓延しており、悪循環が悪循環を呼ぶ状況であった。
 - ※3観点…学習評価における評価の観点を「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つに整理したもの
 - ・「悪循環を好循環に逆転させる」ために、あらゆる活動で「生徒が主語」の学校づくりを進める。そのためには、生徒を前に、生徒を支援し、生徒をどのように変化させるかが重要である。授業改善を行い、生徒の自己肯定感が上がれば問題行動は減るという話を職員に向けて年度当初に宣言した。
 - ・マイスター・ハイスクール、地元開催全国産業教育フェア、資格取得など、校内外のイベントのすべてが学びの手段であって、目的ではない。「生徒が前面に出ている活動になっているか」、「生徒がやらされている活動になっていないか」を教員と再確認した。
 - ・「学び」という言葉は主語が「自分」であり「生徒」である主体的な言葉。「主体的・対話的で深い学び」と言われているが、順番的には、対話的な学びを通して、主体的な学びとなり、それが深い学びとなる。
 - ・学力とは何か？学力とは認知能力と非認知能力を合わせたものであり本当の学力はテストでは測れない。
 - ・Well Beingとは何か？よりよい生き方を考えること。その視点で学校の役割とは何かを考えた。坂井高校では非認知能力を伸ばすことに主眼を置いている。

- ・共通テストに縛られない本校だからこそ、新学習指導要領の完全実施が可能であると捉え、3つの観点で生きる力を育てる授業をデザインする。改訂生徒指導提要にもとづく生徒支援による、全ての授業で自己肯定感を高める仕掛けをつくる。
- ・教師の役割は、知識の伝達者から、学びの伴走者へ変化している。最も重要なのは生徒に主体性を持たせる仕掛けをつくることであり、いかにして生徒のモチベーションを上げ、自己肯定感を持たせるか。
- ・生徒が教員を超えていくように育てるのが専門科の教員の役目。
- ・生徒の変容を教員が体感することで、教員も納得してくれる。
- ・学科間連携は最初から各科が連携して進めるのではなく、ビジネスコース（商業科）をハブとして、「探究的課題研究」で他コースの専門性を尊重しながら、連携できるものを生徒が考えて進めていく。
- ・課題研究では10月の中間発表会（交流発表会）を大事にしている。発表者を聞く人から質問攻めにしてもらう。「うまくいかない体験」を通して、生徒が自分でフィードバックする仕組みをつくる。
- ・多様な人々との協働的な探究の学びを仕掛けたとき、生徒は「主体的に活動する生徒」へ変わり、自己肯定感・自己有用感を育む学校へ変化していく。
- ・世の中では様々な人が関係しながら物事が進んでいる。それを常に学校の中で自然に体験できるのが総合産業高校である。
- ・生徒の表情が変わり、「専門の8コースあるのが坂井高校の強み」という言葉が生徒から聞かれるようになった。地域の見方が変わり、保護者の評価、先生方の表情も変わった。
- ・現在、県内定着率80%となり、福井県内でも学校の評判が上がってきている。
- ・「生徒を前に、生徒を外に」をテーマに、今後も生徒が変化する学校になる仕組みをつくっていきたい。

【質問】

- ・クラブ活動が成り立つためには、ある程度の学校規模が必要だと思うが、クラブ活動を含めた学校全体の活動としてどのように考えるか。
→生徒が多いと様々なことが起きるが、クラブ活動が活発に行われるためには、ある程度の学校規模は必要だと考える。

◎座長まとめ

- ・本日の講演内容を各所で持ち帰って、今後の細かい点を議論する参考にしていきたい。また、意見等も事務局でまとめて、次回に引き継いでもらいたい。

その他

【次回懇話会】

- ・日時 令和7年9月頃（予定）
- ・会場 （調整中）
- ・内容 全国の先進事例の講演、新校の学びのイメージに係る意見交換

「安曇野総合技術新校（仮称）再編実施計画懇話会」のスケジュール

高校教育課 高校再編推進室

年度	月日	懇話会	内 容
令和5年度	1月15日	第1回	【共通理解①】 ・懇話会の趣旨説明
令和6年度	5月24日	第2回	【共通理解②】 ・全国の先行事例の講演 （鳴門教育大学 特命教授 藤村裕一 様） ・グループワークによる意見交換
	7月19日	第3回	【共通理解③】 ・生徒による学校・学びの紹介 ・全体での意見交換
	11月19日	第4回	【目指す学校像・育てたい生徒像①】 ・公開授業の報告 ・地域・産業界からの提言① ・全体での意見交換
	1月20日	第5回	【目指す学校像・育てたい生徒像②】 ・地域・産業界からの提言② ・全体での意見交換
令和7年度	5月19日	第6回	【目指す学校像・育てたい生徒像③】 ・地域・産業界からの提言③ ・これまでの意見交換からの学びのイメージ ・グループワークによる意見交換
	7月23日	第7回	【目指す学校像・育てたい生徒像④】 ・先行事例の講演 （福井県立坂井高等学校 校長 清水一広 様）
	9月24日	第8回	【学校のイメージ策定①】 ・学びのイメージ（事務局案）意見交換 ・先行事例の講演 （山梨県立甲府工業高等学校 総括主任 永田典弘 様）
	11月予定	第9回	【学校のイメージ策定②】 ・学びのイメージ（事務局案）意見交換 ・具体的な学びの議論（特色、融合、魅力）
	1月予定	第10回	【学校のイメージ策定③】 ・具体的な学びの議論（新しい学校の中身）

先進事例の
講演・視察

令和8年度

進捗状況に
応じて開催

＜意見交換項目＞

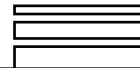
- 学校像、生徒像、新校の学び
- 設置課程、学科
- 活用する校地・校舎
- 募集開始年度
- 募集学級数 など



**教育委員会定例会で
再編整備基本計画を決定**

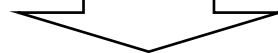


統合事件案を県議会で同意



新校準備委員会を中心に 校名、学校運営、地域協働、進路、生徒会、校歌・校章など細部にわたり検討 ⇒ 懇話会で意見交換

議会同意後、新校開校まで随時、年3～4回程度開催予定



新校開校

第8回安曇野総合技術新校（仮称）再編実施計画懇話会

学びのイメージ 検討手順

学びのイメージ
完成

新しい学校の形

- ・募集開始（開校）年度
- ・活用する校地・校舎
- ・設置課程・学科及び開校時に
想定する募集学級数

新しい学校の中身

学びのイメージ策定（第8回～）

- ・特色あるカリキュラム
- ・学びの融合
- ・魅力づくり など

育てたい生徒像
目指す学校像

教育方針、学びの柱（第4回～第7回）

- ・どのような学校にしたいか
- ・どんなことを学んでみたいか

懇話会の趣旨説明（第1回）
全国の先行事例の講演（第2回）
3校の学校・学びの紹介（第3回）

共通理解

【懇話会事務局 検討方法】

「学びのイメージ（キーワード）」⇒「育てたい生徒像」⇒「目指す学校像」⇒「学校の中身」⇒「学校の形」



これまでの懇話会の意見集約

【学びのイメージ】

- ・「安曇野が学びのフィールド」
- ・「安曇野産業の探究拠点」
- ・「協働的に問題解決に粘り強く挑戦する人物の育成」
- ・「地域連携をとおして社会貢献のできる人物の育成」
- ・「主体的に元気よく何事にも前向きに取り組める人物の育成」

○育てたい生徒像

1. 専門性の高い生徒
 - ・地域で即戦力として活躍できる専門知識と技術を持つ。
 - ・一芸に秀でた能力を持ち、幅広い教養（特に英語力）を備える。
 - ・コンピテンシー（資質・能力）やレジリエンス（精神的回復力）を育成し、チャレンジ精神とコミュニケーション能力を持つ。
 - ・DXなどデジタルの学びを核としたイノベーションを起こせる力を持つ。
2. 多面的な職業能力を持つ生徒
 - ・6次産業に対応した汎用的・多面的な職業能力を育成し、実体験・実経験から多面的に物事を捉えられる力、価値を創造する力を持つ。
 - ・地域課題の発見➡地域連携で研究➡地域貢献を志す（地域愛の涵養）を実践する。
3. 地域に貢献する生徒
 - ・高校生の活動で地域が活性化し、地域の魅力を発信して地域が元気になる。

○目指す学校像

1. チャレンジできる学校
 - ・活気があり、主体性を持ち、積極的に問題解決に取り組む意欲を育成する。
 - ・好奇心とコミュニケーション能力を育て、基本的生活習慣の定着を図る。
2. 地域に根差した学校
 - ・地域に根差した総合学習の場を提供し、地域にも価値のある学校。
 - ・一緒に学び、研究できる地域の研究機関となる学校。
3. 多面的な学びを提供する学校
 - ・農工商の専門科目を学ぶことができ、さらに未来を見据えた農工商が融合した学びができる。
 - ・探究やものづくりを中心とした学校で、資格・検定を多く取得できる。
 - ・デュアルシステムや産学協同研究ができる学校。
4. 柔軟な教育カリキュラムを持つ学校
 - ・学科を移動できる柔軟な教育カリキュラムを提供し、ミックスホームルームや外部人材の活用を行う。
 - ・共学共創コンソーシアムの設置や、安曇野に密着した学びを提供する。
5. 産業界との連携を強化する学校
 - ・産業界からの生徒支援を受ける。
 - ・特色あるクラブ活動の実践。
 - ・生徒募集方法の検討、専攻科の設置。

安曇野総合技術新校の学びのイメージ(懇話会事務局案)

懇話会事務局会での検討方法

「学びのイメージ（キーワード）」⇒「育てたい生徒像」⇒「目指す学校像」
⇒「学校の中身」⇒「学校の形」

【学びのイメージ(キーワード)】（第6回懇話会から変更なし）

- ・「安曇野が学びのフィールド」
- ・「安曇野産業の探究拠点」
- ・「協働的に問題解決に粘り強く挑戦する人物の育成」
- ・「地域連携をとおして社会貢献のできる人物の育成」
- ・「主体的に元気よく何事にも前向きに取り組める人物の育成」

【育てたい生徒像】

【原案】第6回懇話会(5/19)で「提示・グループワークによる意見交換」

1. 専門性の高い生徒
 - ・地域で即戦力として活躍できる専門知識と技術を持つ。
 - ・一芸に秀でた能力を持ち、幅広い教養（特に英語力）を備える。
 - ・コンピテンシー（資質・能力）やレジリエンス（精神的回復力）を育成し、チャレンジ精神とコミュニケーション能力を持つ。
 - ・DXなどデジタルの学びを核としたイノベーションを起こせる力を持つ。
2. 多面的な職業能力を持つ生徒
 - ・6次産業に対応した汎用的・多面的な職業能力を育成し、実体験・実経験から多面的に物事を捉えられる力、価値を創造する力を持つ。
 - ・地域課題の発見⇒地域連携で研究⇒地域貢献を志す（地域愛の涵養）を実践する。
3. 地域に貢献する生徒
 - ・高校生の活動で地域が活性化し、地域の魅力を発信して地域が元気になる。



＜懇話会事務局案＞

【育てたい生徒像】

1. チャレンジ精神とコミュニケーション能力を備えた専門性の高い生徒
2. 多様な人々と協働ができる生徒
3. 安曇野で学び、地域の課題解決に貢献できる生徒
4. 自らを大切にし、他者も大切にする、心豊かな生徒